

JCV journal

Japan Committee, Vaccines for the World's Children

2017
Summer
VOL.9

Myanmar

ミャンマー連邦共和国

支援活動報告

Donor's Voice ミャンマー連邦共和国視察報告

News 今シーズンも継続中! 和田毅投手の子どもワクチン支援

News ウェブサイトをリニューアルしました!

©JCV
2016年ミャンマー視察にて撮影

Donor's Voice

ミャンマー連邦共和国視察報告

原宿ロールによるチャリティ活動

弊社では、「原宿ロール」の売上金の一部を寄付し、JCVの活動を支援しております。10月30日から11月4日まで、私もJCVのミャンマー視察に同行し、ワクチン接種の活動状況を視察いたしました。高原地帯の村のワクチン接種会場では、皆さん総出で歓迎をしてくださりました。経済発展が著しく、民主化の動きに合わせて保健医療の予算も上がっているミャンマーではありますが、地方には、道路網の未整備、運搬に必要な設備不足などでワクチンを届けることのできないエリアが依然としてございます。引き続き支援の必要性を感じる一方で、支援活動に20年間尽力されているJCVの熱意と、現場の医療従事者の皆さんの強い使命感が結実していることを実感いたしました。

株式会社コロパン 矢澤 江梨子



News

今シーズンも継続中! 和田毅投手の子どもワクチン支援

今シーズンも、福岡ソフトバンクホークス和田毅投手による、世界の子どもたちへのワクチン支援が展開中です。

和田投手は、2005年からJCVのスペシャルサポーターとして、ワクチン支援活動を行っており、「1球投げるごとに10人分のワクチンを寄付する」という「僕のルール」は、独自の支援方法として注目され、AC広告などでも話題となりました。2016年の日本球界復帰とともに、JCV支援も再開。これまでの支援の合計は、ワクチン約45万人分、金額にして約2,300万円にものぼります。昨シーズンは、パ・リーグの最多勝利投手賞と勝率1位投手賞の2冠を達成するというすばらしい成績を残されました。JCVスタッフ一同、和田投手のご活躍を応援しています。

いつも応援をありがとうございます。今シーズンも、自分にできることで世界の子どもたちにワクチンを贈りたいと思います。

福岡ソフトバンクホークス 和田毅



投球数に応じたワクチンの寄付

公式戦での投球数1球につき:ワクチン10本を寄付する
・勝利投手となった場合1球につき:ワクチン20本
・完投投手となった場合1球につき:ワクチン30本
・完封勝利となった場合1球につき:ワクチン40本に変更
オールスターゲームに登板したとき1球につき:ワクチン100本

チーム、自身の成績に応じたワクチンの寄付

パ・リーグ優勝の場合 :ワクチン10,000本を加算
クライマックスシリーズ優勝の場合 :ワクチン10,000本を加算
日本シリーズ優勝の場合 :ワクチン10,000本を加算
最多賞・最優秀防御率・沢村賞等、個人のタイトルを獲得した場合、1タイトルにつき :ワクチン10,000本を加算

News

ウェブサイトをリニューアルしました!

ペットボトル回収専用のページを新設

本年2017年4月5日、私たちのウェブサイトのリニューアルを行いました。これまでのコンテンツを維持しながら、スマートフォンやタブレット環境でも見やすいデザインにしました。また、お問い合わせの多いペットボトルキャップ回収専用のページを新設したことに加え、法人・団体とのタイアップ協力について情報を充実させました。JCVカラーである、緑と白をベースにした新しいウェブサイトをぜひご覧ください。※2016年度の決算報告書とAnnual Report(年次報告書)を団体概要に掲載しました。ダウンロードはこちら: <https://www.jcv-jp.org/activity/about>



編集・発行 認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会
〒108-0073 東京都港区三田4-1-9 三田ヒルサイドビル8F
資料請求・お問合せ 0120-555-895
(月曜~金曜 受付時間 9:00~18:00)

www.jcv-jp.org
デザイン/アーク・フロント株式会社 禁無断転載
JCV Journal vol.9 発行日 2017年6月15日





ミャンマー連邦共和国

Myanmar

2016年10月30日から11月4日までの6日間、支援者様10名とJCV職員2名の計12名でミャンマー視察を実施しました。今回の視察ではシャン州を訪れ、ミャンマーにおけるワクチン接種の現状を視察しました。



ミャンマーのワクチン接種の現状

ミャンマーの定期ワクチン接種は、1978年に104行政区での4種類のワクチン接種に始まり、現在では、330行政区全てで10種類のワクチン接種を行うまでに発展しています。この40年近くの間、ワクチン接種の規模は3倍になったと言えます。山岳地域などの交通アクセスの悪い地域には集中的なワクチン接種を行い、ソーラー保冷庫を導入するなどした結果、同国のワクチン接種率は大きく改善しました。そして、2014年3月27日にはポリオフリーが宣言されました。

我々視察団は、首都ヤンゴンのある中央レベルをまず視察しました。その後、州↓行政区↓村へと視察を進め、ヤンゴンに届いたワクチンや関連機器がどのような道筋を通過して、ミャンマー全土の子どもたちに届けられるのかを確認しました。各レベルでのワクチン接種や保冷状況を視察することで、皆さまからのご寄付がどのように子どもたちの元に届くのかしっかりと確認することができました。

今回訪れた Myauk Myay Char 村は、交通アクセスの悪い、典型的な山岳部の村です。集会場の1室をワクチン接種会場にして、近隣のお母さんたちが、18カ月未満の赤ちゃんを連れて集まっていました。明かりもない薄暗い部屋の中で、看護師さんがワクチンを取り出します。そして、新生児にはBCGとB型肝炎を、生後2カ月児には経口ポリオのほか、BCG、五価ワクチン、肺炎球菌ワクチンを、次から次に打ちます。注射の痛みに泣き出す赤ちゃんを見ていられず、顔を背けるお母さんの姿がとても微笑ましく、一同温かい気持ちになりました。



支援20年を迎えて

今回の視察で最も印象に残ったのは、ミャンマーにおけるJCVの知名度の高さと支援に対する感謝の気持ちでした。村の男性陣は伝統的な楽器で歓迎の音楽を演奏し、若い女の子たちは「JCV、20年のご支援ありがとうございます」と書いた紙を掲げてくれ、おばあちゃんたちも黒い民族衣装を着て遠巻きに遠慮しながら笑顔で我々を歓迎してくれました。JCVが1996年から継続してミャンマーにワクチン支援を行うことができたのは、支援者の皆さまからご協力をいただいているお陰です。ミャンマーの人々からの心からの感謝の気持ちを、この場を借りて皆さまにお伝えしたいと思います。

事務局長 伊藤光子

